



門 凡 4
1543
卷 7



洛陽名取集卷之七目錄

上野原

新山

片巻社

松崎

龜山

智水

青木

後原

鬼城

新山

賀茂河

大宮社

橋本

小丸山

大魚

瀬井清水

後原

志津原

新山

賀茂河

長谷

岩倉

新山

東原

岩倉

後原

寂光院

新山

橋本

八雲園

板取

新山

新山

小野

八雲園

瀨清水





上賀茂

○ けふハ洛陽りやうやちより小也。里村おろく連屋れんぐに
 いたさかざととて守社まもりのやしろなりとてや

○ 本社 烈雷神也。東向にたらしめありて

伊弉册尊いさのみこと火神かみ軒遇のりあひ突智つとみはうも侍さむらいたり
 と伊弉諾尊いさなのみことよりこころとて殿とのなりとてその一ひと

雷神かみなりなり

又伊弉册尊いさのみこと脹満はふりみ大おほ高たか上に八色やくしやく乃なり雷かみなりなり
 其八雷やくしやくの首かぶにありて大雷おほいかみなりなりとてひのまこと
 火雷かみなりなりとて版いたはなは土雷つちかみなりなりとていぢにたりとて

○いふはむらさきうり三丁町にらるる東山のこも
當太上天皇の遊殿は宮におはすまうおく所
新まきりり

み後一乃畧のや一かあさくも合心よぬ
ゆらゆらとよあつた衣をいけぬ火のひらき

八塩岡

○いふは長谷のうらふらふなり
顯季まつに。浅うもぬハ一かの畧れぬ葉
をらふらやうくとけぬとむん顯照の
いにらふらとめたら多やみけらも八塩れ
畧のめら葉たむらむらむら又長房ハお

のや一かのをまら岩は一とや一娘のま
りまての神とをむらにけらああ
ふらとらに思ひやれゆらむらとて
葉のまつらにみえい
かへんむらとく。碧名王の替心。龍雁乃葉
水ゆらに瓊花。流る葉乃化にむらに
死ゆらんや
はふ大上皇。幸につるむらむらとて
なむらとめらつら。むらむらとておほらむらとて
りむらとめらつら。むらむらとて

松崎

本有寺中納言藤判創之

○ けりしはむらさきふらうとよや 治經平所
顯季あきのうまの交の白そふらうしーらうとくぬき
海うみのうまやゆきま乃あさうらうぬきんくこころ
王みのにまの勝にぬき室お天皇乃ゆをせれ
たぬきととくぬきぬきぬき

梅井里

○ けりしはむらさきふらうとよや 治經平所
顯季あきのうまの交の白そふらうしーらうとくぬき
海うみのうまやゆきま乃あさうらうぬきんくこころ
王みのにまの勝にぬき室お天皇乃ゆをせれ
たぬきととくぬきぬきぬき

岩倉山

○ けりしはむらさきふらうとよや 治經平所
拾遺しやくいのうまの交の白そふらうしーらうとくぬき
海うみのうまやゆきま乃あさうらうぬきんくこころ
王みのにまの勝にぬき室お天皇乃ゆをせれ
たぬきととくぬきぬきぬき

- 狐坂 ともはむらさきふらうとよや 治經平所
- 龜山 ともはむらさきふらうとよや 治經平所
- 小藏山 ともはむらさきふらうとよや 治經平所
- 朗孫各 ともはむらさきふらうとよや 治經平所



から舟の又

きんりのあし



音のあし

大原



大魚

ひまの。都城より。と。里餘。水の。この。た。り。と。
村。た。り。び。た。り。下。た。り。と。

和泉式部。吾の。に。世。波。う。む。く。う。こ。ハ。何。ら。と。ま。こ。ぬ。
る。一。大。く。く。こ。ハ。何。ら。う。う。と。ま。や。寂。然。法。師。は。星。
に。こ。し。け。り。時。ら。め。ら。う。る。と。そ。ら。に。わ。ら。ぶ。あ。
人。も。あ。ら。う。く。へ。は。は。り。と。庭。ま。る。白。雪。雅。分。
ひ。あ。に。花。居。侍。り。と。く。晴。く。と。ま。月。を。時。毎。も。
り。う。居。れ。表。と。り。そ。の。人。は。い。ん。せ。と。や。
引。す。て。乃。ろ。う。や。ん。び。あ。よ。と。う。と。西。事。院。
し。と。と。縦。糸。は。終。日。あ。ら。う。び。け。り。は。い。く。

煩歩過高野汗衣到大魚柴門孤隱客
枯樹數聲猿舌熟雲鋪席心閑山遠軒
喧花月下經聲立朝昏 け拙詩片くつこ
つにけをへるまけいけいぬ

二月上乃卯日け里のあかしくくつたをくけさ
せぬ日とやめふあへつふつるあり

来迎院

○け院は後母宮乃あつしゆとなつびや
師の開創たつとせにこの院のわたりと證據
乃阿弥陀やうぶつと人々たつとあつし
つりつぬ

釈良也八鹿外富田乃人也齋心に登り台教
成良賀よこて密灌と永意にけ義徒乃初め
大魚乃まつくと来迎院とけく信受法とあり
道とそに信つとね待賢皇后乃宮人あつし院
にまつとるを同轉しとあつし婦人悪毒
乃あつしとくさつとく精進し入むあつし
縁のこころん物とつとくつとつとつと
さつしけいせ思とつとつと固志のつとつとめ
つとつとつとつとつとつとつとつとつと
八字文珠の法は海つとつとつとつとつと
危との大なる變つとつとつとつとつとつと

ふらふらとめ一日黒く人いへるも母に融通ユウツウ念ねん体たいどたのふらふらとあつらひたりたをとしよ
印いん海かいよとゆらめんとつらむらう思おもげとあやこ
ろへど鞍馬くらま守まもの毗舍ひしゃ門もん天てんたのうよけむく
そのまへりらとさつさひりつ思おもくさうり融通
念ねん仏ぶつととわんまうまう路ろけくつしりくで衆しゆを
とめぬ天仁二孝来迎院ライエイイン成なり就す一いつ躰たい客かくとと
るくく声こゑ月つき梵ぼん喫くつととむしよ天養二孝二月一日
に亡な抄せう一いつくろくくろく二に三さん一いつとぞ母はは又またととたたく
大だい氣き經きやう津つ邊へんとと夜よ如ごともも氣きとと又またけいけいととそ
ふふ弘くわん陀だ經きやう時じいいよよ又またとと致ちししととああかかままとと

○五明橋 東迎院のあたる橋や世の鏡に
かたうが飛と鳥とのそとづけ橋はしはわらとと
ひやるんいふとたうと皮かわはよよ熱あつ蛇へびは
つと見おろしゆとぞと比ひ伊いのの路ろととままとと
縁えんに六根ろくこんのまぬたののたたのの直ちゆう前ぜん紙し
ままととささととむむととりり物ものととりりいいととりり
眼がんとといいととんんややととるるととくくととりりととりりととりり
ととままとといいととりりととりり

立た目め無む漸ぜん

○は海うみ八はち橋はし井い宮みやのの援えんなり

小こ登のぼりりののととりりととりりととりりととりりととりり

我の如くはくはく。又都人等の如くはくはく。
喜子の如くはくはく。又都人の如くはくはく。
ふめりてつと

瀬井清水

○いせの太原のくらし。きつとさおふいせが。
業平朝臣のくらし。大原やせつみのおと借ひ
あきくくくく。ややや。甲人。はくはく。あきくくく。
勢よ。大原やせつみ。あきくくく。あきくくく。
やめ。あきくくく。あきくくく。

芥生里

○いせの太原のくらし。きつとさおふいせが。
世に。あきくくく。あきくくく。あきくくく。
あきくくく。あきくくく。あきくくく。
あきくくく。あきくくく。あきくくく。
あきくくく。あきくくく。あきくくく。
あきくくく。あきくくく。あきくくく。

小野

○いせの太原のくらし。きつとさおふいせが。
あきくくく。あきくくく。あきくくく。
あきくくく。あきくくく。あきくくく。
あきくくく。あきくくく。あきくくく。
あきくくく。あきくくく。あきくくく。
あきくくく。あきくくく。あきくくく。

秋まらぬみまふとめさむる向ふはし
らんそ旅らん此かまふ
為雅朝長普門守りく信徳路一ゆりく又
の目もつとゆらせにゆらさけりてよげ里よ
まらうて花さけりてさるく春宮又道通母
乃之のよ勢らる事と眼口はあまの流りて
れあまそまにらるるんあめ

○ 藤魚 小野のうらたうと

後成とこのよ小野しらや橋戻りまよらうつ心
れよとせよはりらるるふ家達らよびす
勢ととらうひらるる野ふに堪ぬ小けあま

修學子守

○ けふいふやこらうらうらうのこや

おのこい智女僧心とく不動信仰の信者
勢とと守たつこ今に在家をなうびたり
里るやま

高野川

○ けふとけらるるの小ぢる糸のみらや

八瀬

此下ハる勢をたにらるるこやこらうらう二里程や
村家けらるるこ
は月知の辰日け里のあひこそくち糸と糸ひ

八雲総とりつらして。土石風雷乃跡氏の院
備へ社樹とさうりして。鬼は信せし。さるも無鬼
湯と作身つ。徐孝先の真正よ。好愛おのつ
か。わ。後秋ハハ。鬼は。院
徳如。廁中。秘中。散が。灯下。杉の。く。大條の。鬼
鬼と。も。グ。一。あ。勇。勢。信。宗。和。や。津。守。の。ま。學
張。さ。さ。つ。に。強。ト。部。湛。玉。中。の。人。に。ま。一
た。ま。ど。い。つ。ふ。理。つ。と。け。き。ゆ。ん。も。う。け。て。一。馬
公。亮。の。た。の。字。と。う。に。温。嶋。が。摩。訶。羅。を。し
ね。つ。お。や。と。お。あ。つ。る。も。黎。丘。人。が。真。子。と。う。ら
世。教。も。ひ。り。う。ん。ふ。う。り。悔。せ。つ。た。く。ま。う。

ぬんのおうへ。も。乃。も。い。つ。ぶ。う。ぶ。う。び。と。い。や
後。が。建。城。中。の。く。鬼。の。ま。ま。一。た。の。ど。う。ま。こ。
千。と。い。兄。を。獲。は。れ。を。搜。出。記。後。せ。り。も。ま。と。あ
ら。も。一。顧。況。ハ。戴。氏。の。唐。異。記。の。序。よ。蜀。帝。乃
杜。鵲。突。帝。の。猶。漸。青。鳥。白。澤。中。の。類。は。し。ひ。石
ぬ。ハ。怪。説。け。と。つ。も。狐。媚。鵲。噪。鳥。鳴。雉。入。と。あ。け。
妖。誕。々。惑。紙。い。ま。一。め。粘。文。ハ。三。聖。伯。羽。向。の。て
に。く。風。伯。雨。師。は。ぬ。の。ま。い。ど。う。の。く。と。う。う。造。化。の
頭。微。と。か。し。ん。お。と。く。ぬ。た。の。し。ん。事。は。は。お。り。ん。と。
李。ハ。函。陰。派。聖。怪。集。之。怪。保。祥。異。記。窮。怪。殊。深。
淵。祿。が。り。と。ま。書。而。よ。ハ。奇。怪。靈。異。ハ。は。あ。く。ハ。せ。つ。

不敵同不見鬼や張巡の厲鬼あなうんといふ
唐の懼が忠義鬼あつたうんといふはげし
らてぐつさ 惣結たのう

志津丸

○けりハ大石乃山あれこや

とて免ハ賊魚やの花竹うとと東のよ
宿まあこたうにいづうの志のいこや静
たうんぶあわうととと右どこにありあり
静魚少のうとと大虫の草うにひさこおめく
靴するもの下にととせつこのおおまがえ
社同成とうまう一わう

余が志もつ子者りうとと。烈論よんうくじ

ととひこらとせんやかなうとととととととと
ととらひらあつととととととととととととと
とととととととととととととととととととと
んのはりしとととととととととととととととと
けりもぞ

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written on aged, yellowish paper and is oriented vertically. The characters are dark and somewhat faded, typical of old documents. The script appears to be a form of shorthand or a specific dialect of a historical language.

